

令和5年度の長崎県技術士会の総会について

長崎県技術士会 会長 山口 和登

令和5年度の長崎県技術士会の総会を6月17日(土)に予定しています。今年度の総会も開催時間を短くし、かつ多くの会員の参加(意向確認)を図るため、昨年度に引き続き、事前に議案を送信・送付し、欠席者には委任状提出、又は議決権行使をお願いし、総会参加者は通常の対面による総会を実施する予定です。

今年度の総会は、下記のように予定しています。1号議案：令和4年度事業報告、2号議案：令和4年度収支報告及び監査報告、3号議案：令和5年度事業計画(案)、4号議案：令和5年度収支予算(案)、5号議案：長崎県技術士会会則・細則改定(案)、6号議案：役員構成(案) 報告事項：会員名簿様式の一部変更等です。

5月になりましたら総会の案内文、個別議案を会員各自に送信・送付しますので、総会への出席の可否、欠席の場合は委任状の提出又は議決権の書面での行使を記入の上、返信していただきたいと思ひます。併せて返信時に ① 所属先・所属部所 ② 連絡先(住所・電話番号・Eメール) ③登録部門の追加 ④ その他 変更事項などがございましたらお知らせください。令和5年度の会員名簿作成時の参考にしたいと思ひます。事務局のほうでも変更事項については調査いたしますが、情報が限られているため、連絡がない場合は前年度同様の記載となりますのでご了承ください。

議案の内、5号議案：長崎県技術士会会則・

細則改定(案)は具体的には、1.日本技術士会長崎県支部会員は基本的に長崎県技術士会会員とするが、長崎県支部会員は長崎県技術士会会費を免除とする案、2.長崎県技術士会の会費収入を補うための方策として、会員名簿の改革案や、協賛団体会員の募集により協賛会費で補う案等、3.長崎県技術士会役員規定に関する改革案等、4.その他検討事項について具体的に改革案を提案したいと思ひます。

会員名簿については役員会で以下の様な意見が出ました。①名簿の内容(区分を少なくしていいのではないかと) ②ページ数(もっと薄くていいのではないかと) ③電子媒体の併用等です。いずれも名簿作成の経費を削減するとの趣旨で意見が出たと思ひられます。検討結果を総会で報告し、令和5年度の会員名簿から改定を実施したいと思ひます。

ところで昨年度の会費未納の方が複数名おられますが、年会費が正会員で3,000円と安いと、忘れられている方が大多数と思ひられます。しかし、3年以上の会費未納の会員は会則に則って自動的に退会となりますので、心当たりの会員はお問い合わせください。尚、今年度の総会までに会費納入の方は未納となりませんのでご確認ください。

以上、令和5年度の長崎県技術士会の総会の予定概要等について述べました。尚、当日は日本技術士会長崎県支部年次大会、第1回CPD研修会、交流会(合格祝賀会)も併せて予定しており

ます。総会等の詳細が決まりましたら、5月には案内致しますので、会員の皆様の多数の出席、欠席の場合は返信メール、ファックス、郵送等のような形でも結構ですので、1人でも多くの書面での参加も期待しておりますのでよろしくお願い申し上げます。

第8回長崎大学（社会環境デザイン工学コース）学生への講演会報告

長崎県技術士会 理事 園田直志

令和4年度（2022年度）12月5日に長崎大学工学部工学科社会環境デザインコースの3回生（44人）の学生に、例年どおり長崎県技術士会の講演会を実施しました。

この講演会も8回目となり、同コースはJABEE認定プログラムでもあることから、技術士制度の広報を含めて優秀な技術者育成プログラムの一環として、大学側からの要請に沿ったものとなっています。今年もまだ新型コロナウイルス禍の中ですが昨年と同様の対面の講義が出来ました。

内容は、昨年度の第7回講義と同じ（APREN77号）になっていますが、各講師ともバージョンアップに努力されています。技術者志望の女子学生も在籍していることから、最近の技術士試験の女性統計データなどを交えて、最近の多様化社会に関する学生アンケート項目も追加したのでその結果も報告します。

日時： 令和4年12月5日（16:10～17:00）

指導教員：奥松教授、瀬戸准教授（社会環境デザインコース）

場所： 長崎大学工学部工学研究科社会開発環境デザイン工学コース 第五講義室

講演題目、講師：

（1）「技術士制度について」

講師1：長崎県技術士会会長
山口和登（応用理学部門）

（2）「修習技術者として技術士を目指せ～10年後～」

講師2：日本技術士会九州本部長長崎県支部長
山口昭光（農業部門）

（3）「技術者のキャリアパスと資格（2022年度版）」

講師3：長崎県技術士会理事
園田直志（建設部門）

講演内容：（1）「技術士」制度について

例年、当会の山口和登会長が実施している講演内容であり技術士試験結果データなどのデータを更新した内容です。

1. 国家資格「技術士」の紹介と技術士制度と技術士及び技術者の定義や役割、仕組みをわかり易く説明した。

2. 最近の一次試験、二次試験統計データなどの現状を説明した。

3. 初期専門能力開発（IPD-Initial Professional development）の基本方針（その1～その4）として詳しく講演した。

4. 技術士の3つの義務と2つの責務について、特典を交えて21世紀の技術士としての心構えを学生達に伝えた。

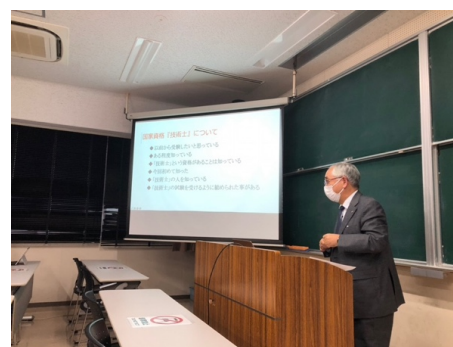


写真1：講演1

(2)「修習技術者として技術士を目指せ～10年後～」

日本技術士会九州本部長崎県支部長の山口昭光氏が、「修習技術者」についてJABEE認定プログラム卒業予定の学生達に、分かりやすく解説して頂いた。

1. 修習技術者とは、技術士補となる資格を有する者である。
2. 修習の目的と目標を持ち社会的・経済的役割を果たす事を述べた。
3. 目標達成のための鍵を伝え、その修習方法や姿勢を講演した。
4. 修習技術者に求められる基本課題と資質・能力、具体的な実施方法などを述べて学生達の道標(みちしるべ)を伝える講演であった。

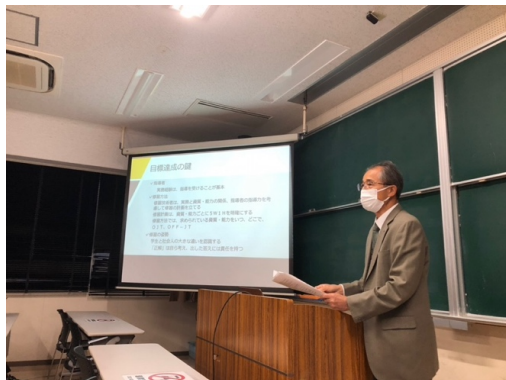


写真2：講演2



写真3：教室内

(3)「技術者のキャリアパスと資格(2022年度版)」

筆者の令和3年度の講演内容を再編集し、2022年度版として講演した。

JABEE認定プログラムの内容や、2019年度実施した長崎県技術士会の会員のアンケートの集計結果を交えて技術系の国家資格のうち技術士の社会的信頼度を紹介した。

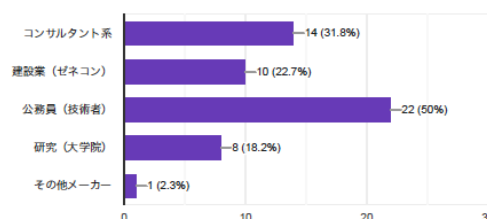
技術士試験結果統計では、平成28年度から公表されている女性受験者や合格率も交えて紹介した。

JABEE卒業後は、修習技術者としてキャリアアップを目指すためには、土木学会認定資格制度などを併用しながら、技術士資格取得後も継続研鑽(CPD)を実施することの重要性を講演した。

(4)講演後の学生アンケートの集計結果から
問1：志望進路

出席者44名の全員からGoogleフォームを使ったアンケート集計が出来た。今年は進路指導の前に講演したので複数選択(56/44回答数)が多くなった様である

その内訳は公務員22名(50%)、コンサルタント系14名(31.8%)、建設業10名(22.7%)、研究8名(18.2%)と続きます。



問2：技術士の資格や名称を以前から知っていましたか

質問1～質問11に関して、例年と同様な回答でした。将来志望状況も変化はありませんでしたが、今年度からの民間企業の年収アップ状況で来年は変化するかもしれません。

問12：技術士資格のメリット等についてどう思いましたか

33人の回答がありましたが、主なものを列記します。

- ① 技術士資格を得ていると周りからの仕事に対する信用度が、かなり変わってくるのだと感じた。
- ② 資格を持っているだけである程度能力のある人だと認められるのはメリットだと思う。技術士として登録された後にも、その役割を責任もって遂行するために、継続的な自己研鑽が欠かせないということを改めて認識した。
- ③ 給与のアップにつながると感じた。
- ④ 公務員への就職の意志が強いので、資格についてはあまり考えたことがありませんでしたが、様々な可能性を考えて資格取得を前向きに考えようと思いました。知らないことだらけだったので印象に残ることばかりでしたが、試験の難しさや合格率の低さが印象的でした。資格を取ろうと思ったら強い覚悟が必要だと知りました。
- ⑤ 正直に言うと、技術者として最高峰の資格なのにメリットがそこまで大きくは思えなかった。
- ⑥ 資格手当やキャリアアップにつながることから、学習意欲をより高めることができると思った。

問13：研修中に強く印象に残ったことを述べて下さい。—33人の回答

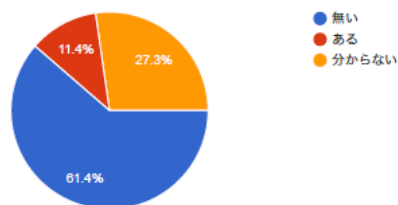
- ① 技術士は約10年かかり、20代で取得するのは難しいというお話が印象に残りました。
- ② 合格者数の少なさ。
- ③ 技術士として登録された後にも、その役割を責任もって遂行するために、継続的な自己研鑽が欠かせないということを改めて認識した。
- ④ 土木業界での女性の推進が技術士の合格率の数値からも読み取ることができたこと。
- ⑤ 技術士の資格は男性だけでなく女性の取得率が大きく、多くの人が資格を取っているデータを見て、女性の理系の人数が増えていることが印象に残っています。
- ⑥ 知らないことだらけだったので印象に残ることばかりでしたが、試験の難しさや合格率の低さが印象的でした。資格を取ろうと思ったら強い覚悟が必要だと知りました。
- ⑦ 女性でも技術士の資格を取る人が増えているということ。

問14：技術者としての将来について、日頃から何か考え、意見・質問がありますか。その他自由な意見を述べて下さい。—26人の回答

- ① 正解（顧客からの注文）に応えるために、自分で考え本質を見抜く能力の向上が必要であると思った。
- ② グローバル化を推進している中で、今後、技術士試験に英語能力の項目が追加されるかどうか気がなった。

- ③ 私は女性の技術者は少数しかいないことから、技術者になることのためらいがあります。このことから、女性技術者として1番に考えないといけないことは何かお聞きしたいです。
- ④ 技術者として仕事をする際、答えのない問題を解決しなければなりません、大学在学中で答えのない問題を解くための能力をどのように育めばよいかを知りたいです。
- ⑤ 技術士の資格を持つ先輩方の意見が聞きたいです。

問15：男女共同参画計画やジェンダーギャップ（男女格差指数）について意見がありますか



問16：質問15で「ある」方は、意見を聞かせて下さい。-2人の回答

- ① 男女に関係なくどんな人とも同じ立場で仕事ができたらいいと感じる。
- ② これだけ男女平等が叫ばれているのに、日本ではいまだ改善されていないこと。

(5) まとめ

技術者の資格に関する国際的な枠組みが変更されています。コンピテンシーは元々、IEA（国際エンジニア連合）が定めた技術者の資質能力基準（GA&PC）を2021年に改定し、SDGsの実現や多様性の確保といった社会課題を解決する

能力を明示し、新技術やイノベーションへの対応が求められています。

今回の多様化社会に向けてのアンケートを収集しましたが、男女格差指数に関して「ある=5名」は女子学生でしょうか。「分からない=12名」はあまり今まで問い掛けが無かったのでしょうか。もう少し分析していきたいと思います。

JABEE、日本工学会、日本技術士会、関係学協会等が一体となって、「技術士のIPDからCPDへのシームレスな国際的に通用する技術士の資質能力開発（コンピテンシー）」を謳っており、技術士第二次試験の筆記試験や口頭試験でコンピテンシーについて受験者を評価する方針となっています。

我々先輩技術士や長崎県技術士会が実施する学生たちへの講義が、これからの優秀な技術者育成に貢献できることを願っています。

(了)

令和4年度第4回CPD研修会報告

岩崎 尚道（上下水道部門）
岩崎技術士事務所

令和5年2月1日に開催された、長崎県支部第4回CPD研修会に参加しましたので、次のとおり報告いたします。

- ・開催場所：諫早商工会議所
- ・出席者：39名

演題1「建設業と公共工事の今後の展望」

【講師】九州地方整備局長崎河川国道事務所

工事品質管理官 かんまにわ 上馬庭 健氏

全国的に建設業の就業者数が減少し、就業者の

高齢化が進行している。労働基準法が改正され労働環境の改善が期待される一方、課題である人手不足や技術継承の解決に向けた取り組みが推進されている。現場作業の生産性向上や人材育成などの取り組みについて講演を頂いた。

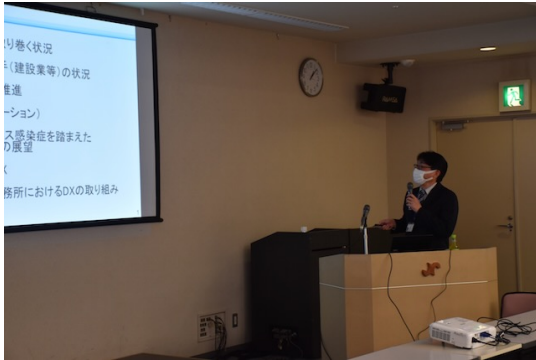


写真4：上馬庭健先生

【講演内容】

1 社会資本整備を取り巻く状況

(1)2000年度以降、一般会計歳出のうち社会保障関係費の割合が増加し、公共事業関係費の割合は減少している。

(2)公共事業関係費については、平成30年度から防災・減災、国土強靱化対策として3か年及び5か年の予算が増額され、国土強靱化に関する事業を集中的に推進している。

(3)2022年度から各建設資材の価格が高騰している。

2 公共工事の担い手（建設業等）の状況

(1)就業者数及び建設業者数は、平成20年度からほぼ横ばいの状況である。

(2)建設業就業者の高齢化が進行し、若年就業者数が増加しない。

(3)新担い手3法を改正し、働き方改革、生産性向上、災害時の緊急対応、持続可能な事業環境の確保などの取り組みを推進している。

3 i-Constructionの推進

(1)建設業の生産性の向上のため、ドローン、3次元モデルによる可視化、ICT建設機械などの活用により省力化や、効率化が図られている。

4 技術革新（イノベーション）

(1)新技術、新材料、新工法を積極的に取り入れ、公共工事の品質確保及び生産性の向上を推進している。

5 新型コロナウイルス感染症を踏まえた建設現場の今後の展望

(1)指名競争入札の活用、事業加速円滑化国債の活用、遠隔現場の積極的活用などにより新型コロナウイルス感染対策を行っている。

6 インフラ分野のDX

(1)BIM/CIMの導入により、3Dモデル可視化等の建設生産プロセスの変革を行っている。

7 長崎河川国道事務所におけるDXの取り組み

(1)監督・検査におけるリモート会議システムの活用、社会インフラ画像診断サービスの活用、ドローンの活用、iPhoneによる点群データ取得、TEC-FORCEの活用などの取り組みを行っている。

【質疑応答】

(質問)ICT活用による成果に関する評価について

(回答)施工現場での安全性の向上、技術者数の削減、資料づくりの省力化、人件費の減少等の効果が見られている。

【受講しての感想】

若年者の労働力減少は、あらゆる業種において喫緊の課題であり、建設業においてICTの活用やドローン等の新技術を活用して生産性の向上、省力化などの取り組みが行われていることがよく分かった。

演題2 「港湾を取り巻く最近の話題」

【講師】九州地方整備局長崎港湾・空港
整備事務所 副所長 佐藤 和博氏

国土交通省は、国際基幹航路の我が国への寄港を維持・拡大することにより、企業の立地環境を向上させ、我が国経済・産業の国際競争力を強化する政策を推進している。雇用と所得の維持・創出を目的とした政策について講演を頂いた。



写真5：佐藤和博先生

【講演内容】

1 国土交通省港湾局の主要施策

(1) 国際コンテナ戦略港湾施策や国際バルク戦略港湾施策などの推進により、京浜港と阪神港の2港をハブ港とした国際コンテナ船による経済・産業の国際競争力を強化する。

(2) 水素・燃料アンモニア、洋上風力発電などの再生可能エネルギーを活用した港湾におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを推進する。

(3) 高潮、高波、地震、津波などの大規模災害に対する港湾の防災・減災、国土強靱化の取り組みを推進する。

(4) 産地と港湾が連携した農林水産物・食品の更なる輸出促進のため、港湾施設の整備を行う。

2 九州地方整備局の取り組み

(1) 適正利潤・働き方改革の好循環サイクルを

実現する。

(2) ICTなどを活用した生産性の向上に向けた取り組みを推進する。

3 長崎港湾・空港整備事務所の主要事業

(1) 長崎港、佐世保港、厳原港、長崎空港などの保全及び整備事業に取り組んでいる。

【受講しての感想】

長崎は古くから国際貿易の拠点として、港を通じた貿易が盛んに行われてきた歴史があり、国際観光のみならず、経済・産業の国際港湾都市としての取り組みに期待したい。

演題3 高規格道路「島原道路」について

【講師】長崎県島原振興局建設部

道路第二課長 小川 勝治氏

島原半島は、地理的ハンディがあるにもかかわらず高速交通網が整備されておらず、交通基盤の脆弱さが地域振興の足かせとなっている。また、沿線道路では交通容量を大きく超えた交通量が確認されており、このような諸問題を解決するため、長崎県が地域高規格道路として整備をしている島原道路について講演を頂いた。

【講演内容】

1 広域道路ネットワーク計画

(1) 平常時・災害時を問わず、県内外の主要都市間の交流促進や連携強化を図るため、高規格道路等によるネットワークを構築する。

2 島原道路の概要

(1) 諫早市と南島原市を結ぶ全長約50kmの地域高規格道路で、従来の所要時間90分から40分へと50分短縮する効果がある。

3 島原道路の整備状況

(1) 出平有明バイパス、有明瑞穂バイパス、瑞穂吾妻バイパスの整備状況について、図面及び写真

等のスライドで説明があった。

(2) 愛野森山バイパス及び吾妻愛野バイパスの供用開始により、時間短縮の効果があり、地域間の連携強化が図られた。

(3) 道路計画の沿線には遺跡が多数存在するため、文化財部局との調整を行っている。

(4) ドローン等による3次元データ、ICT建設機械による施工などのICT技術を活用し、省力化等を図り設計・施工を実施している。

【質疑応答】

(質問) 盛土材の調達方法について

(回答) 現状では切土がないため、再生土砂等を利用している。切土が発生した場合には、盛土に利用することとしている。



写真6：小川勝治先生

【受講しての感想】

整備する橋梁の数が多く、施工にあたっては耐候性鋼材を使用するなど新技術、新材料を採用されていることが分かった。島原地域の活性化のために、施工における様々な課題を解決し、1日も早く道路が完成することを望みたい。

(了)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) 令和5年度の長崎県技術士会の総会、日本技術士会九州本部長崎支部の年次大会及び研修会記事にもあります様に、令和5年度の総会・研修会等は、2023年6月17日に「ホテルセンリユウ-諫早市永昌町13-29 TEL：0957-22-8888」で予定しています。多くの皆様の参加をよろしくお願いいたします。

(2) 会長選挙ほかのお知らせ

先に事務局からお知らせした様に令和5年度は役員改選の年度です。これに伴って、会長選挙も実施されますので立候補の予定の方は、4月14日(金)までに届出をお願い致します。

(3) 日本技術士会CPD活動の実績報告(2022年12月末)

日本技術士会から昨年末までのCPD実績報告書が出ています。技術士登録者97,251人(R3年度)のうち、CPD実績制度について1,922名の技術士が活動実績簿への記載申請を行っており、名簿も一般のホームページ上に公開されています。

長崎県技術士会の技術士会員の皆様は、積極的にCPD活動実績を申請してくださる様にお願い致します。

編集代表&連絡先
N. ソノダ技術士事務所 代表 園田直志
sonoda_naoshi@icloud.com